

NEWS Letter

第70回日本食道学会学術集会開催について



第70回日本食道学会学術集会 会長

宇田川 晴司

(虎の門病院 副院長、消化器外科)

日本食道学会会員の皆様、第70回学術集会へのたくさんの演題のご応募、ありがとうございます。お蔭様で何とか例年に匹敵する演題数がそろい、プログラムを組み立てながら、その内容の多彩さに、一人ワクワクしております。

テーマを「食道樂のすすめ～面白くてためになる食道学～」としましたように、今回のプログラムで第一に目指したのは、食道疾患に係わる多分野の皆様の興味にお応えできる内容とすることと、日頃抱いているclinical questionへの答え、あるいはその手掛かりが見つかるような内容にすることでした。そのため多くのセッションで、かなり具体的な問い合わせそのままタイトルとなっています。あとは当日の、皆様の熱いご討議を待つばかりです。それぞれ違う専門を持った皆様が参加されますので、「この時間は参加したいセッションがない」といったことにならず、どなたもが2日間十分に楽しんでいただけるように配慮したつもりですが、できれば専門の枠を超えて、違う分野の方々と議論を交わすことに意義を見出していくだければ何よりも嬉しく思います。

もう一つ目指したことは、更なる国際化を進めることです。そのため、ドイツのOliver Pech先生、日本の矢作直久先生に、東西の表在食道癌内視鏡治療の最前線について語っていただき、北川雄光先生、小山恒男先生とともに論議を交していただくシンポ、昨年に引き続き今年もアジアの6人の食道外科医による扁平上皮癌治療についてのシンポと、2つの国際シンポジウムを用意しました。つとめて海外にも本学会の情報を流す努力をした結果、招待者以外に10題の英文での発表を6カ国からご登録いただきました。小さな一步ではありますが、この芽をさらに育てるため、国際シンポジウムだけでなく、International Esophageal Forumにも、多くの皆様に奮ってご参加をいただきたいと思います。

食道学会としては初めての試みとして、複数のスポンサードシンポも用意しました。スポンサーの各社には開催者側の意図をよく理解いただき、1社の利害を超えて、興味のあるテーマで幅の広い論議ができるよう、ご協力をいただきましたので、楽しみにしていて下さい。

教育講演としては、私が知りたい解剖と病理の2講演のほかに、森正樹先生に「日本人食道癌の分子遺伝学的特徴」について語っていただく機会を設けました。特別講演には、いわゆるサプライズ企画も検討したのですが、ここはやはり私自身が最近最も感銘を受けた医学分野でのお話、それも食道のすぐお隣で起こっているトピックについて、澤芳樹先生にお話しいただくことにいたしました。ぜひ外科以外の先生、先日の日本外科学会で会長講演をお聞き逃しになった外科の先生に（そして外科学会で聞かれた先生にはあの感動をもう一度！）、お聞きいただきたいと思っております。

それでは教育セミナーを含めて7月4、5、6日、東京タワー（スカイツリーではありませんよ!!）の隣、ザ・プリンスパークタワー東京で、お待ちしております。



お知らせ

平成28(2016)年度教育セミナー開催のお知らせ

平成28(2016)年度の教育セミナー(第70回日本食道学会学術集会教育セミナー)を下記のとおり開催いたします。

【日 時】 平成28(2016)年7月4日(月) 午後3時～6時

【受講料】 事前申込み 4,000円(テキスト、受講証含む)
当日申込み 5,000円(テキスト、受講証含む)

【会 場】 ザ・プリンスパークタワー東京 ポールルームA+B

〒105-8563 東京都港区芝公園4-8-1
TEL 03-5400-1111(代表)

【セッション】 1. 周術期リハビリテーション(慶應義塾大学・辻 哲也先生)

2. 食道外科と形成外科(国立病院機構九州がんセンター・井上 要二郎先生)
3. 食道機能評価(日本医科大学・岩切 勝彦先生)
4. 食道癌に対する内視鏡治療とその偶発症(大阪府立成人病センター・石原 立先生)
5. 食道癌の疫学と予防(国立病院機構久里浜医療センター・横山 顕先生)
6. 食道癌の化学療法(国立がん研究センター中央病院・加藤 健先生)

詳しくは、学会HP(<http://www.esophagus.jp/>)をご覧ください。

日本食道学会 50周年記念大会

日本食道学会50周年記念大会が平成28年1月11日、一橋大学・一橋講堂にてとり行われた。松原久裕理事長より挨拶の後、下記のプログラムに従って進行された。

松原久裕理事長は挨拶の中で、「今年度で50周年を迎える日本食道学会の前身母体である日本食道疾患研究会は1965年8月1日に設立され、同年10月に第1回が徳島市で開催されたが、その準備委員会は前年に中山恒明先生を中心に結成され、会長に桂重次先生が就任され赤倉一郎先生が第一回当番世話人となられた。その際の出席者は100名前後であったが、その後発展を重ねた当研究会の歩みがそのまま食道癌治療の発展の歴史であり今日の食道学会に大きな遺産として脈々と受け継がれている」と述べられた。



ご祝辞をいただきました日本消化器病学会・下瀬川徹理事長は、「両学会は消化器関連学会としてお互い節目の時を迎え、先人の歩んできた道程を振り返り初心に立ち返り密接な連携のもと新たな時代に向かい英知を結集する時が来た。」と話された。また、日本消化器外科学会・瀬戸泰之理事長からは「環境も変化し新専門医制度が開始され、学会の意義、立ち位置が問われてくる。英文誌、取扱い規約、ガイドライン、専門医を有する歴史ある両学会は益々連携を深め、ともに発展していきましょう。」とご祝辞をいただいた。

名誉会長座談会では、掛川暉夫先生から1962年より設立された胃癌研究会に統いて1965年に設立に至る食道疾患研究会の準備の経緯をお聞きした。また、50周年を迎えるにあたり、この機会に先人の歩んできた道程を知り、発足当初の学会の理念、情熱に思いを馳せ、現状を思考してみる必要があることを説かれた。磯野可一先生から食道外科治療の成績、なかでも術後死亡率を含めた術後合併症の改善、遠隔成績向上を時代別に歴史感を述べられた。また、研究会から学会への移行の経緯を述べられ、専門医の在り方についてのご提言をいただいた。幕内博康先生から、多分野にわたる会員構成の構築、法人格の獲得、専門医制度の設立、食道領域の研究活動の活性化、食道疾患研究会発足時からの会長と主題、食道癌取扱い規約のArchive編纂等に注力したことを述べられた。安藤暢敏先生から担当された2003年12月英文機関誌「Esophagus」発刊、論文の集積、インパクトファクターの獲得のご苦労をお話しいただいた。

「日本食道学会のこれから」をテーマに行われた討論会では、放射線医、病理医、内科医、外科医の各専門分野の立場における食道学会の意義と課題について討議され、様々な観点から学会、専門医制度、人材育成、国際化などについて建設的提言がなされた。

会場を学士会館に移して行われた懇親会では、多くの食道疾患研究会、食道学会の功労者の皆様とともに中堅、若手の盛大な懇親の場が持たれた。

(文責・広報委員会委員長 猶本良夫)

日本食道学会50周年記念大会 プログラム

祝 辞 下瀬川 徹 日本消化器病学会理事長

祝 辞 瀬戸 泰之 日本消化器外科学会理事長

名誉会長座談会

「日本食道疾患研究会の創成期と学会への歩み」

掛川 暉夫、磯野 可一

幕内 博康、安藤 暢敏

〈司会〉塩崎 均、松原 久裕

討論会 「日本食道学会のこれから」

小山 恒男、梶山 美明、加藤 健

草野 元康、竹内 裕也、土岐 祐一郎

西村 恭昌、柳澤 昭夫

〈司会〉桑野 博行、北川 雄光

閉会の辞 宇田川 晴司



各種委員会・部会報告

～Esophageal Complication Consensus Group (ECCG)のご紹介～ (国際委員会より)

国際委員会 委員長

北川 雄光(慶應義塾大学医学部外科)

International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE) では Virginia Mason Medical centerのDonald Low教授を中心に食道癌周術期合併症専用のregistryを策定する活動を14カ国24施設で開始しております。国際的に標準的なデータベースを作成し、評価指標を統一した上で周術期マネージメントの改善を図る取り組みです。その成果の一部は International Consensus on Standardization of Data Collection for Complications Associated With Esophagectomy: Esophagectomy Complications Consensus Group (ECCG) .と題してAnn Surg. 2015 Aug;262 (2) :286-94に掲載されました。2015年11月にストックホルムで開催されたEuropean Society for Diseases of the Esophagus (ESDE) にて参加施設会議が行われ私も参加してきました。今回ISDEに正式にデータベース委員会を発足し、このECCGを将来的には食道癌に関する包括的なデータベースに発展させ、UICCステージ分類の改訂にも利用できるようにする構想です。2016年5月San Diegoで開催される米国DDWのISDE役員会議で今後の展開に関して討議する予定です。また、2016年9月19-21日にシンガポールで開催されるISDE学術集会にてその進捗状況が紹介されます。今後我が国のNCD、臓器別がん登録との整合性、連携などの課題を残していますが、国際標準のもとでさまざまな診療行為を評価し改善するための事業として大変注目されています。この活動にご興味のある先生は是非北川までご連絡ください。

平成28年度診療報酬改定の概要 (保険診療検討委員会より)

保険診療検討委員会 委員長

加藤 広行(獨協医科大学第一外科学)

保険診療検討委員会より、平成28年度の診療報酬改定の概要についてご報告致します。全体では技術料にあたる「本体部分」が0.49%引き上げられ、医薬品や材料の価格である「薬価部分」は1.33%引き下げ、両者を合わせた診療報酬全体では0.84%の引き下げになりました。

日本食道学会の要望項目について新設3項目、改正5項目の結果を示します。新設項目として再要望を行った①食道内多チャンネルインピーダンス・pH測定検査、②高分解能食道運動機能検査は棄却され、③化学放射線療法・放射線療法後の遺残再発食道がんに対するタラポルフィンナトリウムおよびPDT半導体レーザを用いた光線力学療法が、内視鏡的食道悪性腫瘍光線力学療法(6,300点)として新設されました。技術改正項目では胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術における加算の付加として、①自動縫合器の加算、②自動吻合器の加算、③超音波凝固切開装置等の加算、④有茎腸管移植を併せて行った場合の加算、の4項目は承認されましたが、⑤食道ステント留置術(経管腔食道形成術)の点数見直しは棄却されています。

その他の改正一覧では、食道周囲膿瘍切開誘導術(開胸手術:26,030→28,210; 胸骨切開によるもの:16,900→19,440)、食道空置バイパス作成術(54,020→65,900)、食道異物摘出術(頸部手術によるもの:25,350→27,890)、食道憩室切除術(頸部手術によるもの:22,480→24,730; 開胸によるもの:31,430→34,570)、胸腔鏡下食道憩室切除術(34,130→39,930)、食道腫瘍摘出術(開胸又は開腹手術によるもの:34,140→37,550)、胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術(76,320【新設】)、内視鏡下筋層切開術(9,450【新設】)、食道切除後2次的再建術(消化管利用によるもの54,960→64,300)が新設あるいは増点になっています。

今後は平成30年度の診療報酬改定に向けて活動していきたいと存じ

ます。保険診療に係る情報やご質問などについて、会員の皆様のご意見を伺いたいと思います。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

2016年度NCD研究課題について(NCD部会より)

NCD部会 部会長 藤 也寸志(九州がんセンター)

本年度も、消化器外科学会による<2016年度『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』の公募>が行われ、3研究課題の応募がありました。理事会にて審査した結果、下記の課題を採用し、消化器外科学会でも承認されました。

2016年度 採用研究課題

食道癌に対する胸腔鏡下手術の安全な普及に関する検討
(東海大学医学部 消化器外科 小澤壯治 先生)

尚、過去3年の研究課題とその進捗状況は以下の通りです。

2013年度 (慶應義塾大学外科 北川雄光 先生)

わが国における胸腔鏡下食道切除術の安全性評価と
リスクモデルの確立

Comparison of open esophagectomy with minimally invasive esophagectomy: an observational nationwide study in Japan. Takeuchi et al. ASCO 2015

現在、論文投稿中

2014年度 (京都大学消化管外科 岡部寛 先生)

Japanese Nationwide Web-Based Databaseにおける
食道切除後のリスク調整死亡率を用いた施設間格差の検討

現在、論文投稿中

2015年度 (千葉大学先端応用外科 松原久裕 先生)

NCDデータを用いたわが国における高齢者食道癌手術の
現状とリスク評価

現在、データ解析中

食道癌取扱い規約第11版英語版について (食道癌取扱い規約委員会より)

食道癌取扱い規約委員会 委員長

梶山 美明(順天堂大学上部消化管外科学)

2015年10月に食道癌取扱い規約が8年ぶりに改訂され新たに第11版となりました。今回の改訂では日本食道学会の全国登録データを解析してすべてのリンパ節部位ごとに郭清効果を算出し、これを根拠としてリンパ節の群分類が変更されました。その結果、手術の内容に直結するようなリンパ節群分類の改訂や、進行度(stage)の改訂が行われ今後の実臨床に与える影響が大きいと考えられます。

現在食道癌取扱い規約委員会では、この第11版の英文化を進めているところです。4月末までに各委員から改訂部分の原稿をいただき、その後7月末までに翻訳作業を終える予定です。

この第11版英語版は日本食道学会の英文機関誌である「Esophagus」の2017年第1号と第2号の2回に分けて掲載する予定です。掲載後は会員の皆様にはどしどし引用していただき、IFの向上に寄与したいと考えていますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

食道手術実地研修プログラム(教育委員会より)

教育委員会 委員長

土岐 祐一郎(大阪大学大学院消化器外科)

食道手術実地研修プログラムは2015年1月より運用開始して2016年3月までに計12件、同伴者を含めて21人が参加している。忙しい合間に見学希望者を受け入れていただいている食道外科専門医の先生には新たな食道外科専門医の育成に向けた本事業にご協力いただき誠に感謝いたします。

内視鏡手術の普及や撮影技術の発達により、学会やオンラインでエキスパートの手術のダイジェスト版を目にのする機会は増えてきています。

しかし手術には、セッティングから、器具の選択、手順など短時間のビデオには収録しきれない情報や、現場でなければわからないノハウがあります。外科医の忙しい日常から時間を見つけて一流の先生の手術を見学することは、食道外科を目指す若い先生には最も必要な経験だと思います。このプログラムは日本中の高名な食道外科専門医と顔見知りになれる絶好の機会です。また、研修医や専攻医と一緒に見学に行くことにより、食道に興味を持ってくれる若手を増やす絶好のチャンスにもなっています。

これまで手術見学は自発的に行うものとされていましたが、公式な研修活動として学会が仲介・支援するという斬新な試みです。修了書も出ますので学術活動として施設から費用が出るところも多いと聞いております。

手続きは学会ホームページから簡単に申し込むことができます。
是非活発にご利用いただくことを期待しています。

2016年度研究課題について(研究推進委員会より)

研究推進委員会 委員長 藤也寸志(九州がんセンター)

昨年度、『研究推進委員会』の活動を開始しました。本委員会の活動のイメージとしては、食道疾患の病態・診断・治療などに関する問題点や課題の解決を図るために、委員会主導さらに評議員からの公募によってプロジェクト研究を立ち上げ、多施設チームによる共同研究やNation-wideなデータ収集・解析を促進し、世界へ向けて情報発信することです。昨年度に承認された2研究課題(ニュースレターNo.18参照)は、各々主任研究者施設での倫理審査が行われています。本年度の研究課題を公募したところ、7研究課題の応募がありました。現在、研究推進委員会さらに倫理委員会での審査を行っているところです。

尚、<食道癌全国登録データを利用した研究のあり方>について、全国登録委員会とともに議論をしています。データを研究者に提供するか?、提供するとしたらその方法は?、データは提供せずに解析は統計専門家に任せるか?、その場合の費用はどうするか?など、データ管理のあり方に加えて解析の信頼度や財務の問題も含めた議論が必要です。本年度中には結論を出したいと思います。

食道学会において活発なNation-wideな研究ができるように、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

Barrett食道研究会のご紹介(内視鏡検討委員会より)

小山恒男(佐久医療センター内視鏡内科)

海外で講演やライブを行う度に、日本と欧米でのBarrett食道癌診断法に大きな乖離がある事を実感します。なぜ、彼らは内視鏡で診断せず、ランダム生検に頼るのか?私は内視鏡による存在診断、範囲診断が可能と信じてきました。海外のライブデモでも、NBI拡大内視鏡画像を提示し、内視鏡による存在診断、範囲診断が可能であることを示してきました。

しかし最近2例、全く診断ができず、生検を採取したら明らかなtub1であった症例を経験し、愕然としました。1例はドイツの症例で、190Z+Exella IIIでした。前医のランダム生検でHGDと診断されての紹介でしたが、内視鏡的には非癌でした。そこで、前医生検痕周辺を4点生検したところ、全てtub1でした。もう1例は日本の症例で1cm程度の0-IIcでした。H260Z+EliteでもIIb進展は診断出来ず、念のため周囲生検を5点採取したところ、全てtub1でした。LSBEに発生した癌は、やはり手強いと思いました。

診断技術を向上させるためには、多くの症例を診るしかありません。そこで、Barrett食道研究会を立ち上げることに致しました。2016年6月4日に佐久医療センターホールで開催致します。特別講演1は天野祐二先生で「真にターゲットとすべきBarrett食道とは」。特別講演2は下田忠和先生で「Barrett食道癌病理診断の問題」。さらに全国公募でLSBEに発生した病変の症例検討を行います。すでに多くの先生方から参加表明を頂戴し、会場に入りきれない可能性があります。詳細はホームページ <http://barrett-eso.com/>をご参照ください。

2017年以降の学術集会のご案内

◆ 第71回日本食道学会学術集会

会長:小山 恒男(佐久医療センター 内視鏡内科)
会期:2017年6月14日(水)~16日(金)
会場:軽井沢プリンスホテル

◆ 第72回日本食道学会学術集会

会長:加藤 広行(獨協医科大学第一外科学教室)
会期:2018年6月27日(水)~29日(金)
会場:ホテル東日本宇都宮

熊本地震に際して

日本食道学会理事長 松原 久裕

日本食道学会会員各位

このたびの熊本地震に際しまして熊本、大分地区にて被災された皆様、ご家族に心よりお見舞い申し上げます。人的被害、建物、ライフライン等様々な影響が生じていると想察致します。現在、熊本県、大分県の本学会会員は両県で53名です。会費納入、第70回学術集会、認定医、専門医等の手続きなど対応に関し、東日本大震災の事例を参考に現在検討を進めています。ご要望がありましたら遠慮なく、事務局まで連絡をお願いします。また、熊本大学でも研究設備を中心にも大な被害を受け、支援のため「熊本地震復興事業基金」<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kikin/fukkou>が設置されています。会員皆様のご支援につきましてもよろしくお願い申し上げます。被災地で復興にむけご尽力なさっている皆様に深く敬意を表するとともに、なるべく早く復興されることを心より望んでおります。

*編集後記

熊本県を震源とする地震によりお亡くなりになられた方々そのご遺族の皆様に対し謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様、本学会関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧を果たされることをお祈り申し上げます。

50周年記念大会を盛会裏に終え、準備、運営いただきました皆様に深く感謝申し上げます。これまでの歴史と未来に向けての様々な課題と提言がなされました。これから本学会を担っていく人たちとともに新しい50年を築いていかなくてはなりません。新専門医制度の導入により私たちの医療現場の景色はどのように変わってくるのでしょうか。医師の診療科選択の流れに変化が起こると思われますし、また、地域医療の担い手のあり方にも大きな地殻変動が起こる可能性があると思われます。歴史に学びながら環境の変化に対応できる組織を構築していくことが求められています。(了)

広報委員会 委員長
委員

猪本良夫
阿久津泰典、有馬美和子、出江洋介、
熊谷洋一、竹内裕也、奈良智之、
前原喜彦、白川靖博、山崎 誠、
山辺知樹

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話・FAX 03-6456-1339

e-mail: office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>